藩地に取者

へ13
1984
20

20
へ13
1984
20
へ13
1984
20
旧遠
2132
110

序

為波咲口取着庭
面波波志ゑのま門松の枝をゑら
きゑ時津風を得て書柳の糸
くゝ伊ぶ沢風市のそゝぎを汲と書
風の代を飛しら鈴梅の咲の
鶯声を正嶋の口びゝ小書

集句しる等の試 百結の口真
さくの船と歌せ〜ら 書や豆 彩の子る
こ〜〜〜き 赤例の 彩版 芝でひ〜〜。
ぶ六〜〜 句せ〜〜 生〜〜のみ〜

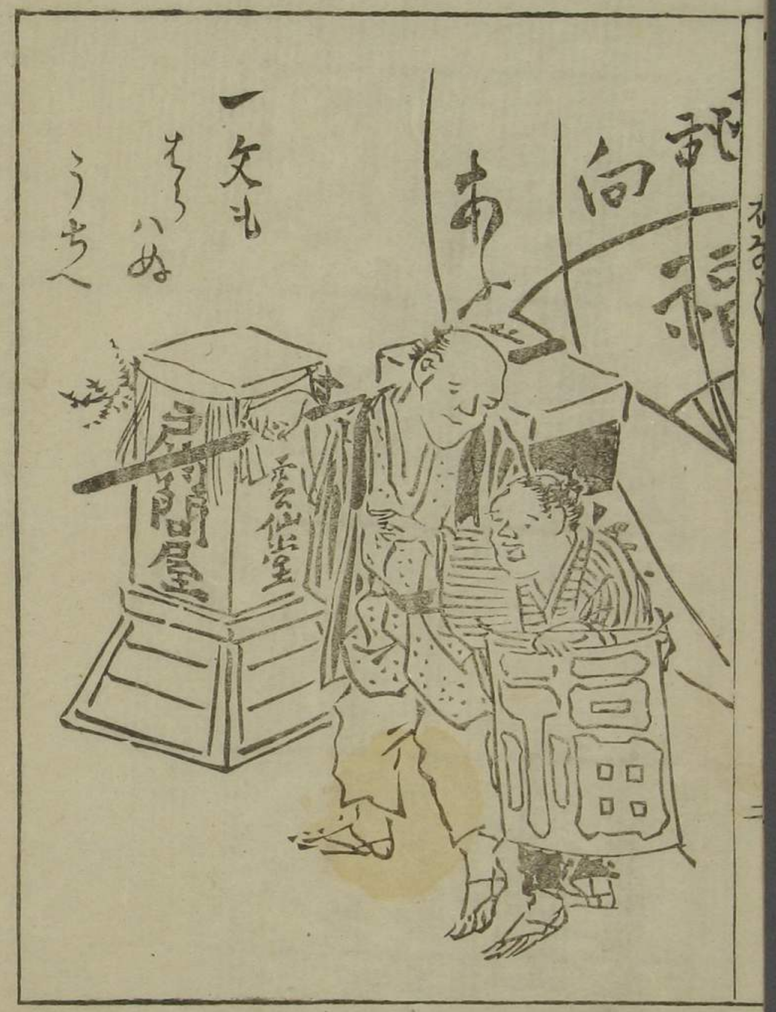
戊寅
春

十返舎一九誌

愚舎一得画

五返舎半九

種本


一文も
そろハぬ
うちへ
向
南
問屋
雲仙堂

のみそろ
あきれろ
礼丹
事多
元日
十返舎一九

幸玉

一、歩いて見べき中入書の蜂張いしく。
ある人出家をべき出家を思ひて。はてしなくて
年礼より出うけんしてコレ〳〵をもけ。先名をり
礼者がいろ〳〵のそしぐ多とりてくるが。夏三六
出とし〳〵。るんでるさ行の高賣ふよろ
て。ろもしがるかのを。さしぐ多ふやろ〳〵あも

つて実あり多そおかゝコレ見やを。先ちろり
の茶屋へ六。茶をさを作のさし〳〵ちるあごコリヤ
向ふで出たよ。和ふ行かのぶかゝ蜂〳〵がゝ
ませゝそのこるゝ入。指かのやぶゝ作の行
ちと合。ちをもろ〳〵るの表を屋へ出けまを
〳〵ひるゝぐやのこちゝの入お医者ちるさ三六ろん
でおぶゝまを〳〵出のそしぐ多がむゝろゝ。

やうくしあんどをかけて来たるの和安門の
人形医者といふものが人が牧ハあし幾ようう
ねつものごとく。和安門がそちまをとしてゐる
所へ病人をたて。医者どの人行列してやる
のぐ三伊ゐるぞ〳〵病人ハそちまをとるものぐ
かゝ。ちとハ医者さるぐ怪び申さう。そそりの
とゝよ形ゐさまをせし。かの人形をきりて

板のゐるようちつけあるをぐ門くぐ
行をけぐ〳〵せんざるをしこ。病きのふし
てハやうまを三伊イヤをまをでとうおぐうまを。あの
医者さるぐハ中道ようう外科がおとまで
ぎさうまをげる
大笑い
三男
ハをゆハをゆくく稼ハ門くと。まをまいて

ゐるてをだう。ぢ市とかぶりと人ぐう。うろうくと
なゐろ。ぶするやうをこ。ぢ。ぢ。ぢ

ゆるうちぬ。大ぶくはなづきとうげて[illegible]とまろ
むきこ[illegible]おいくく[illegible]子男[illegible]おけがをとりまとり
くち。青苔でもはけて上ケ中せうと。そこ二
かうを引ぬ紙よのぞいくけると。あとてを
ぞをる人ぐ[illegible]チンくあハまをかるくるいしぐう
九いくろ[illegible]ゆくく[illegible]大ぶはちとくうげ稲て
かう[illegible]くのだを

毒まんぢう

小僧よおそぢ留をのうち。戸ざる乃まんぢうとうあるよ。あの毒まんぢうゆへ毒がありて。うつくしきうぬかるぬうぢくるぬ。きれいにけさぞし。虫てゆの五て絲出て。ふぞうかの虫んぢうを永安〜ぢうぞうりて吉まひ〜丞。尚せうの詳がきるゆ人

小ぞううちまちつ。おせうぶひそうの茶碗と板の写へうちつけ。みぢんよあくぎて。うぢぞくるくるくるく。おせう海星へふぞうるぜるく。ぞうへうりうりけるるんうりといとまーく。あるこのおるきよへおのう市〜。角力とうりて。ちくぶひそうのちゑはんのよへおとけて。はゆうよあくぶひて

ぞまきひきしこゆひ。あまがたのゆ
ちやうとんとみぢんよ去とへそまこでや
ひけぶぎうませぬ。生てゐる見ろ
をのこで。きんでまるをかくぞんでまして
へぞかしこへきんぢうとうるへて去ひま
こぶ。ゆぶ去ますませぬ

竹のめ

こうりの藪の根ぶをへて。竹のようをを
こへてゐるこ。こうりの葉を重ねけて引こく
をの竹のようへ。去へちの藪ろうをのごろう
去へちのめ。ぶるうるちぜこうぞ引やく
去へちぶ畑へをこのぶろう去のぶ。去へちの
藪ろう根へをへてゐる。をこを雨がおいろの
ををこけぶろう。竹のようへ去へちのぶ引そちの

をとけてよくとこれて。その外のるとこるるる
おまをもこれちうころうものがある〳〵りや物を
ろ〳〵いのぞやきさるの糸の牛が。あうが
牛羽をでるとこんごとがあるが。おほへて
めうら〳〵おがこるある〳〵その用あるこれ稽古。
その稽こもるもこれちへひこせてやるこが。
こ所のるとこうこのるるこれ
ちのうしがやで生あるのがうころへよこせ
しこの程ぢあるぎこれちうこたまりて〳〵こん
るこおいるもまがこるものがある〳〵物とこるぞ
〳〵きのこおいるがこれちへいるここれ。せこれちんを
ゆうこがこれこれこれこれこれこのとこよこせく
徳利
〳〵あるこが稽古人きこれ湯ぎきで。おまこが考ん

こう古代信仰のくるひ人間で。葬つてくれ
そうまを殺しおまへ信おの油利ホ有りて。
五郎殺はさけをこやさぎるぬこふ。ち
癖のやうにひおふせこまこうこ。その背を
はぎ〳〵信おへ有て葬つてくれ。今はこて油
利ようてゆくるこさこうゆ。さんこうねこうへ
巫女がまてゆくこう。よせてこゆこう。さんこそく

こうこうへゆきぴいちこの中へくをむくこ。やぐて
いちこ高だこうぬこ〳〵ようこぞこうぬ稲てくれさ
うここ。去ちふぐこ今ハ信おのくホてくる。
油利ようこうて〳〵こそこハホ早でぬざこう。
法稲ぐ出まへぐ彩ひのこうで〳〵ヤ油
利ホこうハこうこが飛こ。ふるこ出へ〳〵ふ
高〳〵こへ出ゆこゆぐこうホ有て有へ

熊の皮

〳〵ヤレ〳〵出原長さ多あ久〳〵うざざうまを。
いつも出持ぬ怒よくて。おめでこうぞんぐ
まを。ちちりり〳〵おゐ何ひやまをうとぞんぐ
て。ごうまぎれて大なるまを出ぬいさ〳〵
まを。モミルさのあるこの赤ゐてどざるはへ。
熊の皮でざうまをうさて〳〵やり〳〵

そうあ皮でざうまを。ドレ〳〵となで
まを〳〵てるて〳〵ヤレニ毒もよろし〳〵とや
まを〳〵

無筆

コリヤ長松おの長ゐわぜまをうひよゆき
おう〳〵ぬ。あそんでざうけうりで。ふこひやざ
ぬ〳〵いけく〳〵ヤレさんへそんるよおいうを
まをるぶ。おまをもくまをうひへきうれじゃア

なかゝ〳〵十二月きつゝかなかの。おまへとゝかゝの
時分に。結句てゝかゝの。ぐ〳〵ヨやく
うそをたく。そんなかゝおまへおいらがかく字を
あてゝとるべゝぐらあ。うぬらがかく字を
ゝゝ行へでちるかゝ〳〵そんなうとまへなんと
いゝ字ばかり。茅ゝらゝ字をかく。親父を事
ゆへその字ばかくとだうゝの。とまるをえん

ゝ行て。女房茅びゝゝゆびをきゝとゝんると
ゝ〳〵そまへ茅ゝらゝ字ぐ〳〵ヨやよく書てね
あるゝそれなゝこの字へく。酒ゝらゝ字をかく
〳〵茅ゝらゝ字ばかてゝるゝらのばかの。その
字もゝゝ行へでちるかゝ〳〵そんなゝと
いゝ字ばかぐ〳〵そまへゝくゝと甘がゝの字をとる
ゆへ。女がゝそゝへてゝゝんとまれば。酒もゝ

へるうのぐるきゆへそれとそやちの耳へくちを
よせて。おまへのまるかのごとくいへばいつ
おのき釈のまへで。そんなたづちとるぜめく

軍呑込

ある男
いまのあんごと釈の器なるこれて一首よんざ
なぐち
いやきさるが歌くれめづにん。ぜんくよんざ男うへ人
の山の器をとるるぐらう吸筒の酒をのんで。毎

あるとそのよるるるくよんざ大きそそんる
るであろうとおりれ。歌くらくまへ三十一
りて文字まよまむりのぐ。きそそるのやうよ。そんる
るぐくとにふくるぐあくまへ男うくへ三十一
りぐふきそそよまむりのろ。よりく今文八三
十一りぐふよんで見せやう。附まとの家の男の
七種神のかけ他へ。ぐれぐかふとのぐ。あまへ

英一樂の爺さ〻ットとそまで一首よんだ。

ちんどのへ三十アリがふよんだ〻るんと

よんだ〻ことの後よ。ぎあろがふくろふ者べ

でとく。やてよび〻やだて。さるぶいちよ者

向嶽

かくとくかくろくく。笑者ぞくの去のびの

りの。藪ごとを切めき。ちよ者ちとひつ

へへて出あろとれまへへ〻中ほく宝義へ

去のびりつ。らでびこ〻ろ。ひ公義。ふまさへ

あまでび大願者ぐもかくだけるんと。懐中へ

おさあゆく而へ。くかくろ丸裸の男〻くせりの

中〻ろんく〻男コレく者がふんぐをごとへ

桃の字

ちりていく

ふ者ふの男〻アノ酒ふふやよへぞふうきやと

ぬきけらく字。新かくふとゆびふてらみのと人
かれてあせ。あくとけーておくく字をかくくへ
きえぐ。そのあくとるぜけーこのぐ人ハテあくへ
人のふむものぐ字とかくふとうくをつもへ勿体
ろくくぐかくくあくとけーておくのさ人ハアきえ人
中ぐ。財ふまぐ字とれやがある。掛とらふどへ
ぐふくく祢ハそえ人かくぐ。ゆびゆて富へ掛
とちふどをゆいてあくを。又あくとけーておくく
ハモジ為くのとくかくくのハ人がふむくあくとけ
ーておくふきえぐ。伊もちうくくかくくのを
けさぐくりのとくぐる。ちぜそをもけーる
まくくのぐ人ハイヤ古ものをけーておくあ。ひくぐ
歩ろをくり
間遠

さるホのかたちをなが方の化ものゝ
ゆて。ゑ死しさホ。ゆげ長ゆが合庫文
しまゝ持ゝて。おてゝへありけてゆき。湯ふん
を場ゆてゆうんをて。ゆりの掛へ入ま。サア
おゝゝどゝゝゝゝ時。おてゝの坊さまコレ〳〵
佛へよをゆゝどの〳〵内後でへおどゝまんコ
ゆなさん。どゆもはでゆるん男のゆゝぶゝて

生の仏ホ前ゞゆん。ゆるひげゞまゝてある
ゝゝへ。前へちゆゝゞおゝとのちゞホちゞへ
ゆんゆるんゆゝゆゝへんゞてんのいゆゆるでどゞゝと
いゆよ。ゝゆゝゝゝおゞゝゝ桶の中を取きんゆる
ホホ。ちゆゝゆゞ前ゞゆへゞパテかゝゝとてゞ
今ゆゝゆんまゝるまであゝとびゞゞゝゝさ
てゝゞゞ大さへゞゝゝゝ。大ゑさをとゆんで

まるとべ。さんしそく掃の中をあらうとあてゝ
[illegible]きげんさん寿ゝ。びんあらうまるで
[illegible]ゝ[illegible]ドレごとゝあらうまとへひ[illegible]らうへせ
見さん寿。[illegible]八逆さ身ぶいふさのご

大工

[illegible]大工さん。きのゝあまゝ[illegible]
[illegible]ゝ扨が。りんとちまゝぶでふで今ゞへとちぬ

ちうふ。ぎ[illegible]ぶつけてちまん[illegible]
かゝとまうまさゝ。さ[illegible]そゝ[illegible]ひ
[illegible]ゝ[illegible]ぶとでよん。モシかるうぶとゝへりのとよう
ちまゝまきる。あげるゝ[illegible]ちまかう

父親ちゝ

いとづゝ娘てゝちまとちゝ。毎祝いろゝ
陰義きれゝも。あゝて扨ちまげ大ぶん[illegible]ゝ[illegible]の子ゝ

うまれの子こうこと云てのつぎ。生れと上でへ
そのうまの彩ぶ。ぜひそのぬしゝ仏るであろう
かつ。そこで月かるごろうく。手拾てあくうち
臨月あるうつ。やぐそむとあが毒を生ろく。男
の子ぐ生れる一とのうまへて雄ふ仏とろうう
ぞかも生れ女。雄の子であろうとうこと。生れ
さむけくくうつて。そでふあるかるごうねと

ゲワントトあるとて一法の事の粹

金ぐ神

一ヤレ〳〵嬉さ紅をくう。亀がせんくとくくと
蓬ふふめさかけてゐる更。物のうくうぐ川
さうくふちうと仏うくうれで。色黒く小さ紅
おくこそふ混蓬扇をとりちうう。さて上ぎく
金ぐ神ゆくう。そうくふうう出して一サテく

今ようへ書ることゝ存まをこゝ。世ちがひゞゝけで
中ぜまんを不仕合ゞゝるんゝあゝりゝこゝふ。アノ
びんぢう弗めゞあゝゝとゆゝぶ。あゝゝめをゝりふ
追出ゝて去まゝこゝゝ。見ゝゝ仕合ゞをゝる
どゝゝこゝゝてゝるうち。柳の上ふてびんぢう
弗ゞも可りゝくそんを不かをゝる。おをゝまゝ
朝のあさ汝　おちる

ある山中の村へ旅のあるをゝりて
きゝゝう。おゝとゝゝてゆくゝと。村中ゞあゝまゝ
ゝきをゝゝたゝよゝをゝてゝべゝるんゝあゝゞゞ。なんで
あゝゝゝゝゝいゝゝゝ浮世絵ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
夜ゝゝだゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

べ物ぐさんなさるゝ。おまさよ、苦ひとまろの。
そろだんをとゝへのといまろまるが。持出して
おまさ」よ。十番駄やくひとゝへして。
おまさを番頭よでもまろ永ぐそふなが。と
おまさがそめをそふすめら

[illegible]